

発表後のコメント

東京大学 加藤先生

●南湖地区の今後の防災都市づくりに向けて

改めてまちを歩いてみると、静かで落ち着いていて、歴史が感じられて、とても良いまちだと感じました。今日、皆さんの発表を聞いていますと、前回の議論の積み上げがあり、前回のアイデアに魂が入ったという印象を受けました。

グループ討議の結果をみますと、今後の具体的な防災の取り組みとして、全くできないことは挙げられておらず、すぐにできそうなことが出てきていると思います。この先、そういった取り組みを何年かかけて実施していくことになると思います。

私自身もやれそうだなという気分が湧いており、これからも応援していきたいと思います。



～南湖地区、松浪地区 防災都市づくりシンポジウム開催のお知らせ～

日時:平成 23 年 3 月 19 日 [土] 9:00-12:30

場所:老人憩の家 しおさい南湖

内容:南湖地区防災都市づくりワークショップの開催結果の報告とともに、昨年度、浜竹一・二丁目で開催した防災都市づくりワークショップ後の取り組みを紹介します。

地区の特性により、まちづくり活動の方法は様々ですが、南湖地区、松浪地区の活動内容について情報共有し、今後のまちづくり活動の参考にさせていただければと思います。

発行:茅ヶ崎市 都市部 都市政策課 発行日:平成 23 年 1 月
TEL 0467-82-1111 (内線:2504) FAX 0467-57-8377

南湖地区 防災都市づくりニュース

VOL. 4

平成 23 年 1 月 23 日 [日] 南湖地区防災都市づくりワークショップ開催

第4回 南湖地区防災都市づくりワークショップを開催

第4回ワークショップでは、地域点検(まち歩き)を実施し、今から南湖地区でできる具体的な防災の取り組みについて考えました。

第3回ワークショップに続いて、第4回ワークショップでも、西浜中学校の生徒さんにご参加いただき、幅広い議論が行われました。

<第4回WSの内容>

日時:1月23日[日] 9:00-12:00

場所:老人憩の家 しおさい南湖

参加人数:44名

(地域住民:34名、西浜中学校生徒さん:8名、西浜中学校先生:2名)

★体験プログラム

・地域点検(まち歩き)

★グループ討議

・今から地区でできる具体的な防災の取り組みを考える

★発表

第4回 ワークショップの進め方

テーマ:地域点検を通して今から地区でできる具体的な取り組みを考える!

第3回目までのワークショップで出た防災都市づくりのためのアイデアを念頭におきながら、地域点検(まち歩き)を行いました。地域点検の大きな視点を「まちの魅力を探す(路地、寺社、みどりなど)」、「まちの課題を再認識する(初期消火、救助、避難などをする上での課題)」とし、地域点検終了後、地域点検を通じて、感じたことや気づいたことから、南湖地区としての防災の取り組みを討議しました。

ステップ1 地域点検の視点、役割分担を決める!!

◇第3回ワークショップまでに出た意見を参考にして地域点検の視点を設定

◇円滑に地域点検を実施する上で、役割分担を決めて実施

- ・まちの魅力を探す係
- ・記録係(地図などに気付いたことをメモする)
- ・まちの課題を再認識する係
- ・写真係(まちの魅力や課題となる箇所を撮影)



ステップ2 地域点検を実施!!

◇グループにわかれて地域点検を実施しました。

※大人:単位自治会のエリアをまち歩き

(茶屋町・鳥井戸・新南湖、上町、中町、下町)

※中学生:自宅や中学校の近辺など自由にまち歩き

ステップ3 模造紙に地域点検の結果を整理!!

◇グループで見てきたことや気づいたことを地図や模造紙に整理

◇地域点検を通して気づいたことを踏まえて、今後地区として、すぐにもできる防災都市づくりの取り組みを考えました。



地域点検（まち歩き）の結果



ブロック塀が倒れたら!?



生け垣の良い事例



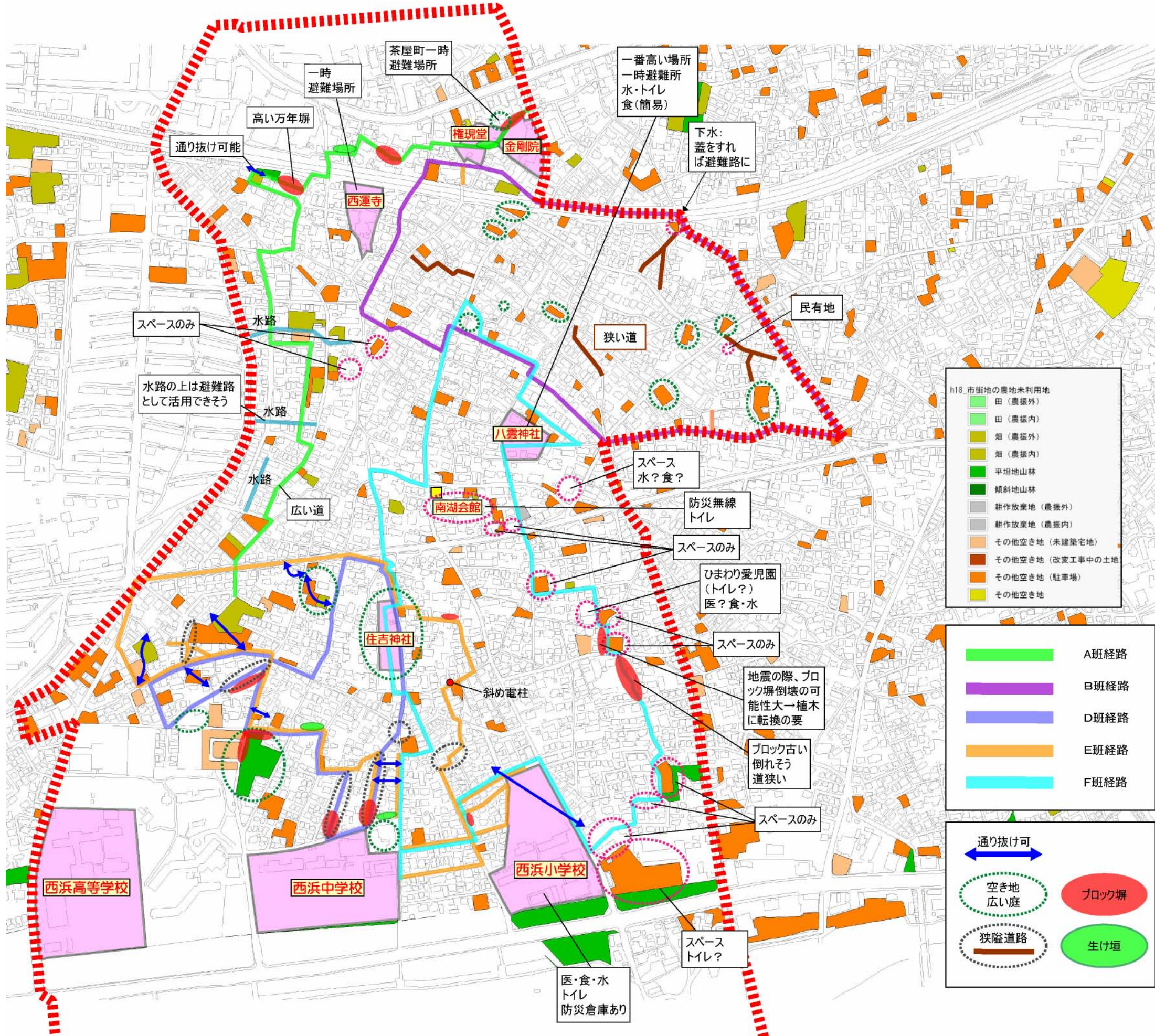
水路の上を避難路に・・・



通り抜けできるかな?



一時避難場として・・・



h18. 市街地の農地未利用地

田(農振外)
田(農振内)
畑(農振外)
畑(農振内)
平地地山林
傾斜地山林
耕作放棄地(農振外)
耕作放棄地(農振内)
その他空き地(未建築宅地)
その他空き地(改変工事中の土地)
その他空き地(駐車場)
その他空き地

緑色線	A班経路
紫色線	B班経路
藍色線	D班経路
オレンジ線	E班経路
水色線	F班経路

赤い双頭矢印	通り抜け可
赤い楕円	ブロック塀
緑い楕円	生け垣
黒い楕円	空き地 広い庭
赤い楕円	狭隘道路



防災倉庫等も入れマップづくりを



消火栓の位置を確認!



風情のある雰囲気は残したい



ここに何人集まれる?



ふたをしたら避難路になる??

グループ討議 & 発表 その1

《A班（茶屋町・鳥井戸・新南湖）》 要援護者の情報を網羅したマップづくりを！！

◆要援護者の情報を網羅したマップづくり

- ・各自治会で要援護者の情報を網羅したマップをつくります。そして、緊急時には、それを基に活動をしてもらうという仕組みづくりが必要。

◆普段からの体制づくりの必要性

- ・防災は、向こう三軒両隣と言いますが、小単位の活動グループが必要。それがまとまれば全体となるのでは。そのためにも、さらなるコミュニケーションづくりを。多少の時間をかければできる！
- ・現在の地区では、10～20軒を1組としていますが、防災上の仕組みを考えると、4～5軒の少人数が良い。防災を踏まえた組の編成を考えていきたい・・・
- ・一時避難場所として、西運寺、御霊神社、空地などに集まり、向こう三軒両隣で安否確認。防災リーダー、組長、民生委員会、自治会役員の方が入って、まずは自分の家の安全、次に隣近所の安全という形で、地域から始めて、輪を大きくしていく。

《B班（上町）》 防災マップづくりと各家庭への配布！！

◆駐車を緊急避難場所へ

- ・駐車を緊急避難場所とし、そこで安全が確認できたら、広域避難場所に避難してもらう。こういう仕組みづくりが必要。

◆防災マップづくりと各家庭への配布

- ・防災マップをつくり、各家庭に配布。それを見れば、一時避難場所、消火器の位置がわかる。

◆ソーラーライトを各家庭の庭につけよう

- ・災害時に、インフラが使えないと、防犯灯もすべて消えてしまい家も外も真っ暗、どこに何があるのか、方向すらわからない状況に・・・。ソーラーライトがあれば、気持ちが落ちつくのでは。

◆コミュニケーションをもっととろう

- ・昔からの住民と若い世代の新しい住民間のコミュニケーションが取りづらい状況。昔から住んでいる住民の方が、新しい住民の方に働きかけて、一緒に様々な活動をするようにすることが必要。

《C班（中町）》 日頃からの近所付き合いを活かした防災対策を！！

◆救急隊の創設を

- ・町内で救急隊を組織して、高齢者の方、重症の方を助ける体制をつくる。高齢者の方の安否確認方法としては、自宅に旗を立てるなど。また、回覧板等で緊急時のPRをしていく。

◆危険なブロック塀の改修を

- ・狭い道でブロック塀が古いところは、新しいブロック塀にしてもらうようお願い。

◆日頃からの近所付き合いを活かした防災対策を

- ・お祭りが盛んなため、町内でコミュニケーションが取れており、近所の方同士が顔見知り。その長所を活かして、防災都市づくりをしていく。

《D班（下町）》 住居案内板の更新を！！

◆一時避難場所の確保

- ・古い家が多く、広い敷地の家がある。一時避難場所として使えるような場所をチェック！！
- ・私有地となるが、避難場所へ行けない時に、広い敷地の家へ避難できるような仕組みを検討。

◆住居案内板の更新を

- ・住居の案内板がかなり古いので、新しく。その際、消火栓や一時避難場所などの位置も入れて新しく。

◆要援護者の見守り体制の構築を

- ・要援護者については、自治会、民生委員がうまくタイアップして取り組む必要がある。隣近所が見回りをするなど、きちんと制度化。

グループ討議 & 発表 その2

《E班（西浜中学校生徒さん）》 **すぐに取り組める5大プロジェクト！！**

◆プロジェクト1 中学生ができることをリストアップするプロジェクト

- ・バケツリレー、瓦礫を集めるなど・・・

◆プロジェクト2 まちの備え知るプロジェクト

- ・倉庫の場所や備蓄内容を知ること、災害時にすぐに使うことができる！！

◆プロジェクト3 ブロック塀をなくすプロジェクト

- ・ブロック塀が倒れると道が塞がってしまうので、ブロック塀を壊した方がよい。ブロック塀撤去後は、生け垣づくりの手伝いや、花を植える隊を中学生でつくる！！

◆プロジェクト4 更地を防災拠点として活用するプロジェクト

- ・どこでも1つ、2つは必ず更地がある。それを一時避難のために活用する。

◆プロジェクト5 井戸活用プロジェクト

- ・八雲神社周辺には井戸や銭湯、特に井戸がある家が多くある。お年寄りに代わって、手動井戸ポンプで水をくむ手伝いなどをしたい！！
- ・銭湯活用プロジェクト。八雲神社周辺にある銭湯に聞き込みをしたところ、災害時、緊急時などに、銭湯のお湯や燃料が使えると言っていた。ただし、銭湯の井戸は手動ではなく電動なので、中学生や大人や市の職員と協力をして、銭湯の電動の井戸を手動に変える活動をしていきたい！！

◆その他

- ・中学校のプールの横に防火水槽がある。その防火水槽の放水口からホースを繋げて消火活動ができるが、危険なために消防隊専用。緊急時はそのようなことは言ってもらえないので、一般の方でも消火活動ができれば良い！！

《F班（西浜中学校生徒さん）》 **すぐに取り組める防災都市づくりの取り組みは？**

◆通りぬけができる場所・一時避難所に看板をつける

- ・通りぬけができる場所・一時避難所に看板をつけます。
これは、大人から、地域の人に呼びかけてもらいます。

◆消火器のクモの巣の掃除を通して地区の防災意識を高める

- ・女性が指示をして、男性に消火器のクモの巣の掃除してもらいます。これは、1ヶ月に1回やってもらいと良いと思います。それによって、消火器の位置を把握もでき、まちを知る機会になると思います。

◆危険なブロック塀の解消を

- ・危険なブロックを大人に解消してもらいます・・・

